



## CONTENTS

特集 自然に挑む 江戸の<sup>スーパー</sup>超グラフィック—高松松平家博物図譜

トピック 松平頼恭ってどんな人? —博物図譜をつくったお殿様

展示室だより 修理完成記念特別公開 重要文化財「志度寺縁起絵」

れきみんだより 情熱をもち瀬戸内文化を探り、考え記録した人—高橋克夫展—

調査研究ノートvol.29 瀬戸内海の戦後処理—多度津「港組」の活動—

しゅうほうがふ かか  
モ、「衆芳画譜 花果第五」

「衆芳画譜 花果第五」では、計174図の植物を収録し、柿やミカンをはじめとする果実が多く描かれている。上図では、三種のモモの花を並べ、その手前に果実を配置する。モモの果実は断面をみせる状態で描かれる。断面は細かな書き込みやグラデーション、さらには雲母を重ねることで光沢を出し、瑞々しい果肉を表現している。

# スーパー 自然に挑む 江戸の超グラフィック

## —高松松平家博物図譜

自然に対しての興味関心は、今も昔も変わりません。自然に魅了された人々が、自然物を書物にまとめ残そうとする行為は、時代を超えて、世界的にみられます。

現代においては様々な切り口で編集される図鑑が身近な一例であり、写真や絵といった手段によって、視覚的に自然を紹介しています。一方、江戸時代の日本では、木版や手彩色による絵を用いて自然界のものを集積・分類する書物が多く作られました。そこには、江戸の人々の自然に対する強い関心や美しさへの興味を見出すことができます。

高松松平家に伝来する博物図譜（香川県指定有形文化財、以下「松平家図譜」と略す）もまた、そのような自然に挑ん

だ軌跡の一つと言えます。高松藩五代藩主・松平頼恭（1711～71）の命によって、18世紀半ばに「衆鱗図」4帖、「衆禽画譜」2帖、「衆芳画譜」4帖、「写生画帖」3帖の4種13帖が制作されました。「衆鱗図」では、魚や甲殻類など、「衆禽画譜」【図1】では、水鳥や小鳥など、「衆芳画譜」「写生画帖」では草木や花、果実などを描くとともに、ほぼすべての図に名前を記した付札（つけふだ）があります。収められた数は総計で2,141図にも及びます。



図1 コマ・ノコマ・ハト「衆禽画譜 野鳥」

### スーパー “超グラフィック”

松平家図譜では様々な技法を用いて質感や立体感を出そうとしており、そのひとつが、箔の使用です。魚類では箔の上に彩色を施し、“鱒”【図2】「衆鱗図 第一帖」【図2】にみられるような、その生々しい光沢のある質感となっています。

“夏ミカン”【衆芳画譜 花果第五】【図3】に注目すると、果実の皮の表面が凸凹していることに気が付きます。これは、貝がらをすりつぶして作った胡粉（こふん）という白い顔料を塗り重ねて、

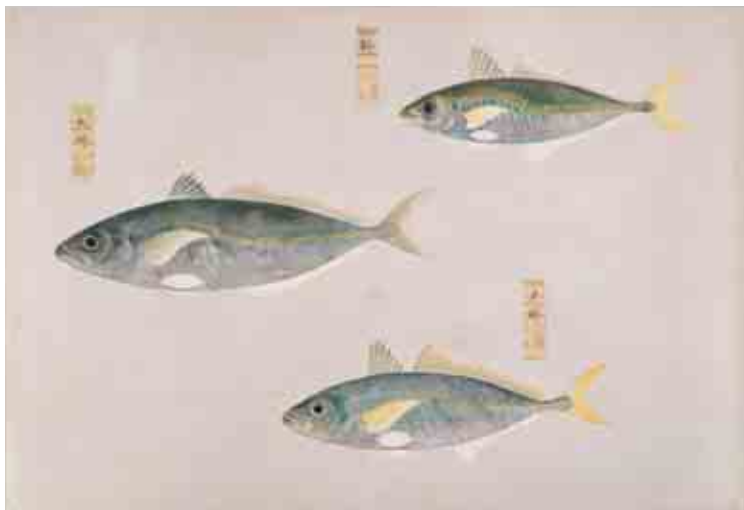
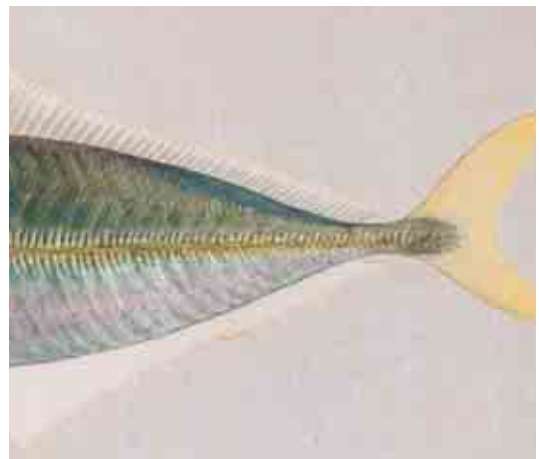


図2 鱒・鱒・大鱒「衆鱗図 第一帖」



鱒 部分拡大

盛り上げ、その上に彩色を施したものと考えられます。“夏ミカン”では表面全体に、柑橘類の点状にへこんだ質感を表しています。この盛り上げは、柑橘類のほか果実の種、鮫の体表を表すのに用いられています。

盛り上げと同様に立体感を出す工夫として、切り抜きが挙げられます。「衆鱗図」と「衆禽画譜」のすべて、「衆芳画譜」および「写生画帖」の一部は、輪郭線にそって切り抜き、画帖



図3 夏ミカン・スタヂ「衆芳画譜 花果第五」



夏ミカン 部分拡大

に貼りつけています。“ウドン海月”「衆鱗図 第三帖」【図4】の切り抜きはまさに極致とも言えるもので、何本もある細い触手の一本一本を切り抜いています。このような細かな切り抜きを大量に行う徹底ぶりからは、立体感に対する強いこだわりをもって、制作を行ったことが感じられます。

箔の使用、盛り上げ、切り貼りといった技法は、伝統的な日本の絵画でみられるものです。松平家図譜の表現技法における最大の特徴は、技法を組み合わせる、独創的な用い方をするな



図4 ウドン海月「衆鱗図 第三帖」



ウドン海月 部分拡大

ど工夫を加えることによって、立体感や質感を追求している点にあります。これらの技法は松平家図譜の表現を支える重要な要素であり、緻密な線や濃密な色彩と合わさることによって、鑑賞者を松平家図譜の世界に引き込みます。

松平頼恭の伝記『増補穆公遺事』(瀬戸内海歴史民俗資料館蔵)には、「衆鱗図」と深く関連すると考えられる「魚図」を幕府へ献上したとあり、「魚図はとりわけ精密で、世にないもの」と表現されています。「精密」の表現は「衆鱗図」にもあてはまり、松平家図譜の評価は高いものだったと推測されます。

江戸時代には様々な博物図譜が制作されており、その背景には、博物学や描写力といった確かな基礎がありました。そして頼恭ら松平家図譜に関わる人々の自然に対する高い関心と情熱が、松平家図譜を生み出した原動力となったのです。

松平家図譜は、約300年前に制作されました。しかし、松平家図譜が与える感動や驚きは、時代を経ても色あせていません。抜kindでた描写力やデザイン性は、現代の私たちにも衝撃をあたえる“超グラフィック”と言えるものなのです。本展では、松平家図譜の「ここまで描くか!?!」に迫ります。

(学芸員 鹿間 里奈)

## 展覧会情報

### 特別展

## 「自然に挑む 江戸の超グラフィック—高松松平家博物図譜」

4月27日(土)~5月26日(日)

開館時間：9:00~17:00(入館は閉館の30分前まで) ※4月27日~5月6日と会期中毎週金・土曜日は20:00まで開館

休館日：5月7日・13日・20日

観覧料：一般1,000円、前売・団体・瀬戸芸パスポート提示(1回限り)800円

※高校生以下、65歳以上、身体障害者手帳等をお持ちの方は観覧料無料

※5月18日(土)国際博物館の日は観覧料無料

# 松平頼恭ってどんな人？

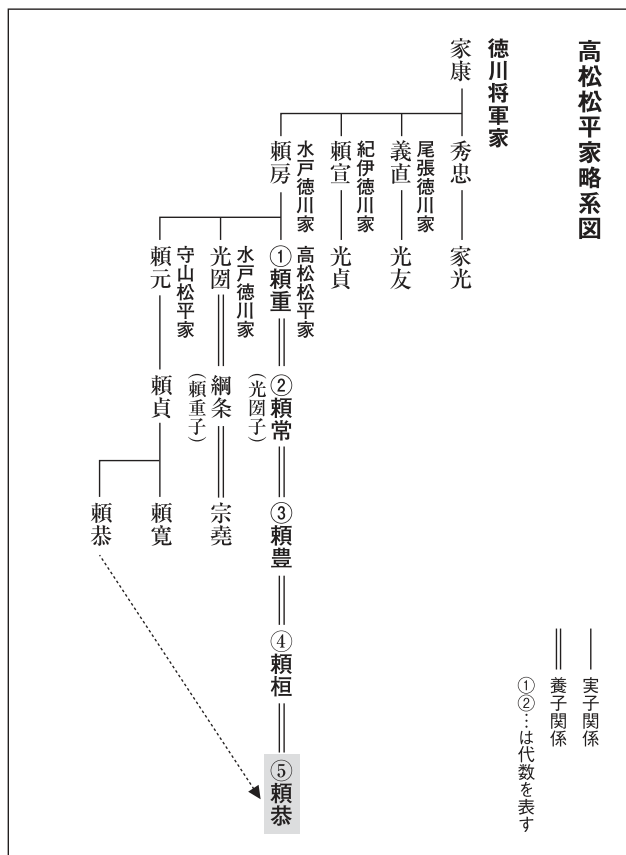
## — 博物図譜をつくったお殿様

海や川に生きる生き物、空を飛ぶ鳥、野や山に生える植物のすがたを見事に紙の上に表現した「高松松平家博物図譜」（香川県指定有形文化財、以下「松平家図譜」と略す）。この図譜は、高松藩五代藩主の松平頼恭というお殿様の命でつくられました。では、頼恭はどのような人物だったのでしょうか。

### 守山松平家から高松松平家へ

松平頼恭は高松松平家の出身ではありません。守山松平家二代の頼貞よりさだの三男として正徳元年（1711）に生まれました。守山松平家は、水戸徳川家の分家にあたり、領地は現在の福島県郡山市や茨城県大洗町などにありました。

頼恭は幼いころから聡明だったそうで、養子に迎えたいという大名家もあったといえます。頼恭が28歳になった時、高松松平家四代頼桓よりたけが重い病にかかりました。頼桓の近い親族に跡継ぎがないため、頼恭が五代当主を継ぐことになりました（系図参照）。



### 博物学への興味

頼恭は「物産の学問」つまり博物学へ深い関心を寄せていました。植物や鳥・獣、鉱物、骨や羽毛の標本などを、中国や

朝鮮、琉球さらには西洋のものまで集め、専用の箱に納めていたと伝えられています。

このような博物学の興味から生まれたのが、「松平家図譜」だったと考えられます。図譜は、世界の博物画と比較しても全く引けをとらない、むしろそれを超えると言われるほどの出来になっています（p.2～3特集参照）。制作にあたっては、頼恭の意向が反映されたと考えて間違いのないと思われます。

### 「高松松平家博物図譜」の背景

非常に完成度の高い図譜が生まれた背景には頼恭の性格があると思われます。頼恭の伝記である『増補穆公遺事』（瀬戸内海歴史民俗資料館蔵）を読んでいると「根気強く」という文言があちこちに出てきます。関心・興味をもったものに力と時間を注ぐというような意味合いで使われており、繰り返し出てくることから頼恭の目立った特徴だったことが分かります。

頼恭の父、頼貞は武芸に熱心で、弓術・馬術・鎗術・剣術しんいずれもその技を極めたといえます。中でも剣術については新田宮流たみやを学び、そこから一流派を興すまでに至ります。また、刀剣についても関心を持ち、自ら鍛刀を行ったほか、刀の外装についても新しい形を考案しています（画像参照）。

一方、頼恭の兄で守山松平家を継いだ頼寛は、菊の栽培と研究に力を入れ、著作を刊行しています。

父、兄ともに物事を極める人物であったといえ、頼恭の性格はこうした環境によって育まれたとみられます。取り組んだことを徹底して追求するという姿勢が、高い質を保ちつつ、豊富な内容をもつ「松平家図譜」を生んだのです。

（主任専門学芸員 御厨 義道）



松平頼貞が考案した刀剣拵の金具（大学頭）

## 修理完成記念特別公開

# 重要文化財「志度寺縁起絵」

## —描かれた海辺の情景 祈りの物語—

4月26日(金)～5月26日(日)

志度寺(香川県さぬき市)の本尊十一面観音の由来や当寺建立・再興のいきさつなどを描いた志度寺縁起絵(志度寺蔵)は、代表的な中世の縁起絵として知られ、重要文化財に指定されています。この展覧会ではその修理完成を記念して、現存する志度寺縁起絵6幅を関連資料とともに特別公開します。

### 「絵解き」された志度寺縁起絵

海辺の霊場・志度寺では、鎌倉時代の末頃から南北朝時代に縁起絵が次々と作られ、その絵を前にした人々に物語を語り聞かせる「絵解き」が行われたようです。「御衣木之縁起」という1幅には、近江国(滋賀県)の大木が暴風雨で流れ出し、琵琶湖から淀川を経て瀬戸内海に入り、志度の浦に漂着した



志度寺縁起絵のうち「御衣木之縁起」(縦168.9×横125.9cm 志度寺蔵)

様子が描かれています。各地で崇りをなしたこの霊木は志度の浦で拾われて十一面観音に彫られ、それが志度寺の本尊になったというのです。絵を前にした人々は、海のかなたからやってきた霊木の過去に思いをめぐらせ、時空を超えた観音の霊力を感じ取ったことでしょう。

### 志度寺縁起絵の保存修理

中世の縁起絵として著名な志度寺縁起絵は、横折れが発生するなど作品の状態は良好といえるものではありませんでした。そこで適切な状態に戻して今後も永く保存してゆくため、文化庁の指導のもとで国・県・市の補助を得て、平成27年度から29年度までの3か年をかけて文化財保存修理事業が行われました。修理は、傷みが構造部分にまで及んでいたため、解体して各部材の補修や取り替えを行う本格修理です。美術工芸品の本格修理は多くが50年から100年の周期で行う必要がありますが、今回の修理も昭和26年度の修理から60年以上の時を経て行われ、軸木や裏打ち紙などが交換されました。

### 志度寺縁起絵の修理過程から

修理の過程で知り得る情報もあります。軸木6本のうち4本には、寛文11年(1671)の墨書銘があり、高松藩二代藩主松平頼常の命で修理が行われたことがわかります。また6幅のうち2幅には、肌裏とよばれる裏打ち紙として墨染色の紙が使われていたことが確認されました。この他、赤外線調査によって下図(図の下書き)があることも判明しました。本展ではこのような修理過程での新たな知見も紹介します。



(左)軸木の墨書 (右)赤外線写真にみえる下図(裏面からの撮影)

※いずれも「讃州志度道場縁起・二」

保存修理を終えた志度寺縁起絵—地元香川でのお披露目会となる本展は、6幅すべてを鑑賞できる絶好の機会です。本展を通じて中世の縁起絵の魅力を感じていただくとともに、貴重な文化財を次の世代へと引き継いでゆくための修理の意義について改めて考えていただければ幸いです。

(専門学芸員 上野 進)

■ミュージアムトーク／5月5日(日)、5月18日(土) 各13:30～

# 情熱をもち瀬戸内文化を探り、考え記録した人 —高橋克夫展—

高橋克夫(1918~2000)は、瀬戸内海歴史民俗資料館(以下「歴民」と略す)専門職員として国重要有形民俗文化財の収集に関わるとともに、日本民具学会などでも活躍し、長い年月をかけて収集した図書や、聞き取り調査メモ、各地域で記録した写真などを数多く残しています。

本展では、瀬戸内国際芸術祭2019の春会期に合わせて、高橋がその生涯をかけてテーマとした「瀬戸内から、海洋民族文化の根源を探り当てるための手がかりを探る活動」の一端を紹介しします。

## 少年時代から英語科教員へ

高橋は、小豆島の安田村(現小豆島町)で、神懸山保勝会会長などを務めた高橋和三郎氏の四男として生まれます。小豆島で幼少期を過ごした高橋は、次第に大陸へのあこがれを抱き、戦前中国にあった上海東亜同文書院に学びの地を求めます。多感な青年期に、中国で異文化に接触した体験や、内村鑑三の思想に傾倒したことなどが、彼の人生に大きな影響

かんかけやま

を与えます。

その後、南洋で従軍した後復員し、昭和26年(1951)、英語科教諭として津田高等学校へ赴任します。20年間の教員生活を送りながら、昭和40年頃より、香川民俗学会会長(当時)の武田明とともに、フィールドワークを重ねました。



高橋が収集したテグス行商船  
(徳島県鳴門市、高橋克夫撮影)

## 歴民専門職員として

高橋は昭和46年(1971)、香川県教育委員会社会教育課に配属となり、歴民では設置準備から、開館、草創期の職員と

して活動します。その間、国重要有形民俗文化財「瀬戸内海及び周辺地域の漁撈用具」<sup>ぎょろう</sup>2,843点(歴民蔵)など多くの漁撈用具を収集しました。

広域資料館として、歴民が根底にもつべき意味を模索しながら、計り知れない情熱と行動力で東奔西走し、漁民の心に触れるなかで、多くの記録や写真を残しました。

## 民俗と民族の探求

高橋は、記録として文字に残らない庶民の日常生活のなかに「民俗の心」を感じるとともに、瀬戸内の多くの民俗事象が、香川県域はもちろん、瀬戸内地域だけでは究明できない問題を含んでおり、それらを解決するためには、より広いグローバルな視点が必要であるとの認識をもち、その研究対象を海外にも求めていきます。

また歴民退職後は、国立民族学博物館の国内資料調査委員や、四国民俗学会会長などを務めるとともに、四国民家博物館や、高松市石の民俗資料館の資料収集・整理にも関わります。

海洋民族文化の根底を探りあてるため、香川から瀬戸内へ、瀬戸内から世界へと、情熱あふれる行動力で、調査研究の対象を広げていきました。

## 民俗写真家としての顔

高橋は、讃岐写真作家の会の会員であり、昭和42年(1967)の第1回香川県写真展で入賞を果たすなど、高い写真技術と感性をもっていました。武田とともに民俗事象を精査し、その一端を写真とともに紹介した『備讃瀬戸の民俗と風土』(木耳社、1973年)は、高橋の写真技術が生かされた貴重



船の乗り初め(三豊市詫間町、高橋克夫撮影)

な民俗書であるといえます。また高橋は、日本民具学会講座「民具の撮影—その技術と心得—」において11回にわたり連載を行いました。

祭りやものづくりの現場を撮影した写真には、高橋がとらえた「民俗の心」を感じとることができます。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 木内 英博)

| 展 | 覧 | 会 | 情 | 報 |

瀬戸内海歴史民俗資料館テーマ展

情熱をもち瀬戸内文化を探り、考え記録した人  
—高橋克夫展—

3月21日(木・祝)～5月26日(日)

場所:瀬戸内海歴史民俗資料館第9・10展示室

開館時間:9:00～17:00 ※入館は16:30まで

休館:月曜日(月曜日が休日の場合は、翌火曜日、但し4月30日(火)は開館)

調査研究  
ノートvol.29

## 瀬戸内海の戦後処理 —多度津「港組」の活動—

平成30年度に瀬戸内海歴史民俗資料館に寄贈された資料群の中から、昭和22年(1947)香川県多度津町で創設され、多度津港における荷役や瀬戸内海主要航路の掃海作業を行っていた「港組」の活動の様子をとらえた写真資料について紹介します。

終戦後、進駐軍の指令により多度津港に、善通寺師団などの旧軍事施設に残存していた大量の銃弾や砲弾などが海中投棄されました。また瀬戸内海には戦時中、米軍や日本海軍が設置した機雷の多くがそのままになっており、終戦直後に、定期航路を航行中の汽船が機雷に触れ沈没するという事件が多発し、多くの犠牲者を出しました。

終戦から数年が経過した多度津港は経済活動再開に伴い、多くの貨物船が出入港するようになり、海中投棄された弾薬や機雷など、航海の安全を脅かす兵器類を引き揚げる必要が生じました。このようなことから、港組は昭和22年12月から翌23年(1948)2月にかけて、港内付近に沈んでいた砲弾や船舶



写真2 二式飛行艇引揚げの作業風景

10数隻の引き揚げなど、数度にわたり多度津港付近の掃海作業に従事しました【写真1】。

さらに港組の活動範囲は多度津港に限らず、香川県西部海域にまで及び、海中に沈んでいる弾薬や船舶はもとより、飛行機や小型潜水艦など多種多様なものを引き揚げました。

【写真2】は、海中より引き揚げられた巨大な飛行機の尾翼が、陸上にあらわになった直後の様子を写しています。尾翼の大きさや形状などから、この飛行機は旧日本海軍の二式飛行艇と思われます。付随資料の「港組略歴書」によると、昭和23年から昭和25年(1950)9月にかけて、海軍飛行隊が置かれた三豊郡詫間町(現:三豊市詫間町)近海において数回にわたり掃海作業を行い、旧海軍軍用飛行機の残骸を引き揚げたと記されています。そのいずれかの引揚げ作業の際に撮られた写真と考えられます。

終戦後70数年が経過し、終戦直後の混乱期の実態を調べるのが困難になりつつある中、本資料は、多度津港や香川県中西部海域における戦争の爪痕が色濃く残っていた様子を示す極めて重要な資料と言えます。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 主任専門職員 芳澤 直起)

(参考文献)・「多度津町誌」(多度津町誌編集委員会編、多度津町、1990年)

・氏家陸夫『多度津港史話』(水脈の会、2011年)

(調査協力) 岡部富雄、森広幸、山本浩司、渡辺ハル(敬称略)



写真1 兵器類引揚げの作業風景


特別展「自然に挑む 江戸の<sup>スーパー</sup>超グラフィック」関連

**講演会** 聴講無料・要事前申込

◎松平頼恭と博物学大名のネットワーク

歴史に埋もれていた「博物図譜」に着目し、日本美術・文化史上における意義を明らかにした今橋氏が、松平家図譜とその周辺についてお話しします。

日時：5月11日(土) 13:30~14:30  
場所：地下1階 講堂  
講師：今橋理子氏(学習院女子大学教授)  
定員：230名(先着順)  
申込期間：受付中、定員になり次第終了



「衆禽画譜」

**学芸講座** 聴講無料・要事前申込

①松平家図譜の魅力

展示を担当した学芸員が松平家図譜に関してお話しします。

日時：5月19日(日) 13:30~15:00  
場所：地下1階 研修室  
講師：鹿間里奈(当館学芸員)  
定員：70名(先着順)  
申込期間：受付中、定員になり次第終了

②博物図譜を作ったお殿様—松平頼恭

博物図譜を作った高松藩五代藩主、松平頼恭とはどんな人物であったのかに迫ります。

日時：5月25日(土) 13:30~15:00  
場所：地下1階 研修室  
講師：御厨義道(当館主任専門学芸員)  
定員：70名(先着順)  
申込期間：受付中、定員になり次第終了

**講演会・講座の申込方法**

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(\*)を利用したインターネットから。はがき、FAXの場合は、氏名、電話番号、講演会・講座の名称を明記してください。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課  
TEL.087-822-0247 FAX.087-822-0049

**ワークショップ** 申込不要

①衆鱗図つり堀


「衆鱗図」に登場する海の生き物たちを釣っちゃおう!

日時：5月1日(水・祝)、2日(木・休)、12日(日)、26日(日)  
10:00~12:00、13:00~16:00 随時受付  
場所：2階 西ロビー  
参加料：100円(保険料含む)

②なんちゃって「衆鱗図」を作ろう!!

アルミホイルを使って「衆鱗図」を作っちゃおう。


日時：5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、19日(日)  
10:00~12:00、13:00~16:00 随時受付  
場所：2階 西ロビー  
参加料：200円(保険料を含む)  
※カッター等の刃物を使います。



③チャレンジ! 松平家図譜の技

図譜のコピーを使って「松平家図譜」の切り抜きに挑戦。

日時：5月5日(日・祝)、6日(月・休)、25日(土)  
10:00~12:00、13:00~16:00 随時受付  
場所：2階 西ロビー  
参加料：200円(保険料を含む)  
※カッター等の刃物を使います。



**スペシャルトーク** 申込不要


生物統計学者、進化生物学者の三中信宏氏の豊富な知識と幅広い知見からみた松平家図譜の魅力、展覧会会場でお話しいただきます。

日時：4月28日(日) 13:30~14:30  
講師：三中信宏氏(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター専門員)  
場所：2階 展覧会会場(会場入り口にお集まりください。入場には観覧券が必要です。)

みなかのぶひろ

カフェポット ミュゼ  
特別展にちなんだメニューをご用意してお待ちしています。

ミュージアムショップ  
特別展関連のオリジナルグッズを取り揃えております。



■営業時間：9:00~17:00(夜間開館の日は20:00まで)

**速報◎秋の特別展「日本建築の自画像」プレ・シンポジウム開催決定!**

日時：4月29日(月・祝) 13:00~16:45  
出演：松隈洋氏(京都工芸繊維大学)、青井哲人氏(明治大学)、多田善昭氏(建築家)、庄子幸佑氏(香川県庁)、佐藤竜馬(当館学芸課長)  
詳細は決まり次第チラシ・当館ホームページでお知らせします。


**れきみん普及事業** 要事前申込

①れきみん講座

「情熱をもち瀬戸内文化を探り、考え記録した人、高橋克夫氏をおいにかけて」

瀬戸内海歴史民俗資料館草創期の専門職員であり、日本民具学会などで活躍した高橋克夫氏の情熱に満ちた活動を、彼が残した記録や写真などから考えます。

会期：5月12日(日) 13:30~15:00  
場所：瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室  
講師：木内英博(瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員)  
定員：40名(先着順)  
申込期間：4月2日(火)~、定員になり次第終了



②ワークショップ「瀬戸内の島を訪ねる①—佐柳島—」

塩飽諸島の西の端、多度津港沖に浮かぶ佐柳島を当館職員の案内で見学するとともに、佐柳島の関係者からのお話しをうかがいます。

日時：4月22日(月) 9:00~16:30  
場所：佐柳島(多度津町)  
講師：当館職員ほか  
定員：30名  
参加料：50円(保険料) ※交通費は各自で支払ってください  
申込期間：3月19日(火)~4月10日(水) 必着

①れきみん講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(\*)を利用したインターネットから。はがき、FAXの場合は、氏名、電話番号、講座名を明記してください。

②れきみんワークショップの申込方法

往復はがき(1枚につき3名まで)、「かがわ電子自治体システム」(\*)を利用したインターネットから。往復はがきの場合は、氏名(ふりがな)、住所、電話番号、ワークショップ名を明記してください。申込者多数の場合は抽選となります。

申込先：〒761-8001高松市亀水町1412-2 瀬戸内海歴史民俗資料館  
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県ホームページ「電子申請・施設利用申込」  
香川県ホームページ「お役立ち情報」のトップ「かがわ電子自治体システム」から「電子申請・届出サービス」をクリック

